

テーマ

農商工連携・6次産業化

農商工連携の3つのポイント

戦略！販路！継続性！

青森県農産品加工協同組合

良い商品を作っても、売り場がなければ意味はない。商品の「衣装」は統一ブランド、「舞台」は地域。はじめから販路を決めた稀有な取組みを実施し、組合員の販路を開拓している。

背景と目的

「株式会社福島屋」は、原料のこんにゃく粉の価格変動を回避すため、県内生産者とのこんにゃくいもの契約栽培を開始したが、より多くの原料確保と精粉処理が課題となっていた。一方、「農事組合法人あづま」は、昭和50年代から農産物の生産と一次加工を行い、ノウハウや販路を確保していた。そのような中、平成20年、青森県中央会から当農事組合法人を紹介され、こんにゃくいもの生産や精粉処理の契約を締結し、福島屋が加工・商品化する計画で連携を開始した。冷涼な気候により栽培が難

しいこんにゃくいもの栽培には、青森県畑作園芸試験場の支援を受け技術を確立した。そして、この農商工連携の取組みを核として、域内での和日配品の原料・加工・販売という地産地消の復活のための、生産者と製造者の連携による供給体制の構築を目的として、当組合は設立された。組合設立を契機に、株式会社福島屋と農事組合法人あづまの連携に当組合も参画し、農商工等連携事業計画の認定を受けた。

事業・活動の内容

認定された農商工等連携認定事業計画を核とし、その他の日配品の原材料を地域等から調達する企業の組織化を図り、「和日配品の地産地消の復活のため、生産者と製造者の連携による供給体制の構築」という目的を、「あおもり正直村」という消費者目線によるわかりや

活動の成果

「あおもり正直村」ブランドの構築により、ブランドデザインを全組合員の商品パッケージに使用した。そして、単独企業のみでは採用されにくいスーパー等の売り場に対し、「あおもり正直村」という統一ブランドによるものづくりのコンセプトの浸透が図られた。設立以来の活動の影響から、現在では逆にバイヤーから声が掛かるようになってきており、売り場確保という目標は一定の成果をみている。組合設立時、6社30商品でスタートを切った「あおもり正直村」は、現在では20社200商品に拡大し



▲ 販路の一つ地域の老舗百貨店広報誌での当組合ブランド「あおもり正直村」特集



▲ 鎌田慶弘理事長（福島屋社長）と中央会職員



▲ 「あおもり正直村」のホームページ

青森県農産品加工協同組合

住所：〒030-0862

青森県青森市古川三丁目14番8号

設立：昭和21年5月

出資金：1,770千円

電話：017-718-3009

URL：http://www.syojikimura.com/

業種：食料品製造業

組合員：13人

組合専従者：7人